

●第5回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 21日

16日の夕立はかなり激しく強い雨が降り続けました。そして長時間の降水量だったので魚とりの21日まで流れ続けてくれるだろうと予想をして、予定場所での開催といたしました。ところが19日の夕方には、たっぷり流れていた水は、全く枯渇して溜まり池状態で、まったく流れていませんでした。7月23日の状況よりも悲惨な姿でした。参加者の予定は116名でしたが実際は82名と予定の規模がかなり少なくなっていましたので、楽しめました。これが116名だったら芋の子を洗う状況だったと思います。

約1時間で魚とりを切り上げ、木津川本流の浅瀬に移動しました。広い砂浜を長く歩いて水辺にたどり着きます。まさに遠浅海岸のようになっている水辺が待っています。その水が流れて気持ちよく足にあたります。なかなかこんな体験はできません。じゃぶじゃぶと膝までつかって、安心して歩けるのです。驚いた小魚が銀色に光って逃げまどいます。大きい石、小さい石、砂の場所いろんな川床を歩きます。流れの速さや圧力に変化があります。各々めいめいが川の変化を体感できました。そして投網で魚を取って生き物の川を目のあたりにしました。保護者もいろいろ体験されたのではないかと思います。頃合いを見て、朝一番に見計らっていただいた安全な場所で、川ながれを体験しました。保護者にはストッパ役を引き受けてもらって、上流からライフジャケットをつけた子供たちが流れに身を任せて下ってきます。仰向いて、青い空を目一杯見て水に身を任せる体験は、本当に素晴らしいひと時ではないでしょうか、そんな体験をさせてくれたのが「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」でした。

この日は暑さが厳しかったのですが、日陰を作ってくれていたエノキには葉が一杯で暑さを防いでくれていました。この小枝になんと、ゴマダラチョウの幼虫がくっついていました。濃い緑の葉に見分けが付きにくい幼虫を金田さんが発見して紹介をいただきました。小林君がオオムラサキの幼虫もゴマダラチョウの幼虫もエノキの葉を冬の枯れ葉になるまでに、しっかり食べて、大きくなって冬を越せるよう今頑張っているのだと解説いただきました。

●里山農園トマト畑の撤収 20日

収穫が終わったトマト畑の撤収予定日、午前7時から理事長の深田さんは誰よりも早く出かけて、下準備を行っていただきました。足もとの草刈り、通路の整備、撤収場の雑草の引き抜きなど、作業が順調に進むように随分と骨を折っていただきました。予定の集合時間には6人もの人が集まっていただき、手際よく作業が進みました。夏草が茂り終わると、もう秋の虫がにぎやかになります。秋の七草キキョウも姿を見せています。ところかまわず激しく繁茂した葛の葉の下には紫の花も間もなくでしょう。畑のトマトのかたづけが終わると冬野菜の種まきが待っています。

●ビワコミ会議 マザーレイク 嘉田前知事や三日月知事も出席 200人の出席

里山からは日下、山村、今年のテーマは恵み、味わい、暮らし、つなぐと15のワークショップが開催されました。今回で6回目となる集会でした。里山の会からは日下さんと山村が出席しました。

●第2回理事会 26日（金）午前9時30分

今年の前半は、通常の定番事業（乗船体験。野草を味わう会など…）の推進を成功裏に導きながら結成20周年記念祝賀会と位置つけたお茶会と蛍の集いと里山音楽会を成功させるための膨大な準備をすすめながらの取組みと同時に発生したササユリ問題の2回の臨時理事会の開催をしなければならなかった20年の歴史上最大のピンチを乗り越えなければならない瞬間でした。今回の理事会はこの事実から何を学び、何を教訓とするのかを明らかにしなければなり

ません。大切な理事会になると予想されます。

●第 16 回川に学ぶ体験活動全国大会 in 琵琶湖・淀川流域圏が 9 月 3・4 日に摂南大学で開催されるにあたって里山の会としての位置づけについて

全国大会の場で、全国事例として発表の場が与えられたことは非常に名誉です。数多い参加団体の中からの推薦は高い評価がされたものです。即ち里山の会の活動が広く認知され、全国に発信するに値すると認定されたものです。また日ごろの活動の継続と積み上げをしたスタッフの成果と評価です。そしてそれを発表いただく北野君や小林君は、スタッフ全員に成り代わって準備をすすめていただいているのです。学業の傍ら、こうした苦労と時間を割いての努力に心からお礼を申し上げなければなりません。少なくとも事務局会議参加者は感謝の気持ちをもって発表会場にご出席ください。

●第 20 回里山講演会 9 月 11 日 13 時開場 中部住民センター（セセラギ）

里山の会が 1996 年に結成されて春と秋に講演会が開催され、お互いに立場の違った多様な集団として問題意識を共有できる場として講演会での学者、有識者から時々の課題について学習を積み重ねてきました。この取り組みこそが里山の会を継続発展させてきた原動力となってきました。その原動力となった講演会が 20 回の記念を迎えられたのです。今回は歴史上始まって以来という大学院生や大学生など若者の研究成果をお話しいただいて大いに現在の到達点を学ぶ場にしようと企画しています。おなじみの小林慧人君はこの夏ハワイ諸島に 2 か月滞在し研究観察した成果を、北野大輔君は竹蛇籠の取組みと魚について、中榮玲志君は木津川と亀、橋口俊也君は森と里と海の環境循環を発表予定としています。そして河川レンジャーの（京都大学農学博士・東北大学名誉教授）谷口信彦さんからは特別講演として「帰ってきた海産系天然アユ その保全と持続的保全を考える」。アユの余り知られていない生物特性 天然アユの自律的生産を可能にする、持続的利用を可能にする流域住民の知恵の働かせ方などを分かり易くお話しいたします。また木津川における鮎の現状について詳しい解説をいただきます。いずれも日常生活ではあまり聞かれないお話で、しかも非常に関心の高いテーマとなっています。こぞってご参加ください。

●竹蛇籠の一部モデルの制作 27 日（土）

14 時竹切り出し 14 時 30 分竹割 15:00 組み立て 終了 17:00

2015 年の秋には真竹 230 本を切り出す大仕事を行いました。今年はその竹蛇籠を制作し設置した経験をご参集される皆さんに報告する北野君の発表の展示作品として、新品の竹蛇籠を製作しようということになり、長さ 3 m ものを 3 個制作して、現場の状況を知っていただくということになりました。27 日の魚とりの後、昨年と同様、真竹の伐採竹割、節とり後に組み立て仕上げることにしました。本物を見た方々には、きっといい土産物になると思います。素晴らしい写真スポットになるのではないのでしょうか。一度経験しているので、かなりスピードアップで編み上げられると思います。私達にとっても復習するいい機会となります。ご参集ください

集合泉大橋南側 木津川右岸の堤防 500m 上流 堤防上に駐車可能です。

里山講演会で、文化の秋の先駆けをいたしましょう